|  |
| --- |
| 会議の結果 |
| 件　　　名 | 令和４年度田辺市社会教育委員会議　第１回定例会 |
| 日　　　時 | 令和４年５月25日（水曜日）　　13時30分～15時10分 |
| 場　　　所 | 田辺市民総合センター　２階交流ホール |
|  | ○社会教育委員出席者12名：　松場議長、尾崎副議長、稲垣委員、加藤委員、九鬼委員、近藤委員、坂本委員、佐久間委員、砂野委員、中根委員、西川委員、柳川委員欠席者１名：　小山委員○事務局７名：　佐武教育長、前川教育次長、狼谷生涯学習課長、那須生涯学習推進係長、尾﨑公民館係長、遠山公民館係主査、森口生涯学習推進係主事 |

１．開会　教育長挨拶

正副議長選出

引き続き、議長には松場三恵子委員、副議長には尾崎弘和委員が選出された。

２．議長挨拶

３．説明事項・報告事項

（１）教育委員会機構図及び生涯学習課機構図について

（２）令和４年度当初予算について

（３）第２次田辺市生涯学習推進計画（前期基本計画）令和４年度実施計画について

（４）令和４年度まちづくり学びあい講座について

（５）令和３年度まちづくり学びあい講座の実施状況について

（６）令和３年度生涯学習センター利用者数について

（７）令和３年度公民館活動参加者数について

（８）令和３年度第17回市民スポーツレクリエーション祭について

（９）令和３年度第45回市民体育祭について

（10）令和４年度第46回市民体育祭について

（11）第30回文協フェスティバルについて

（12）南方熊楠顕彰館　６～７月の行事予定について

以上の項目について、事務局より一括して説明及び報告を行った。

【質疑応答・主な意見】

A委員：あとの生涯学習計画にも関わってくることですが、ピンクの冊子の４ｐで稲成公民館建設事業　費というところで２億2500万ぐらい使って新しく稲成公民館が出来る予定です。それでコロナの関係もあるんでしょうけど、17Pをみるとコロナを関係なしにしても各公民館の格差というんですかね、サークルの数であったり延べの参加者数にすごく差があるんです。人口的なこともあるんでしょうけど。でも、例えば中辺路とか大塔は地域にしては多いんですね。出来れば、この前のアンケートにもあったと思うんですけど公民館は地域の人づくりであったり集まる場であったりすごく大事な場所なのでもうちょっと公民館の運営なり、これからすごく公民館の役割が大事になってくると思うのでもうちょっと盛り上がり、計画それぞれできたらいいなと思いますのでよろしくお願いします。また、計画の方でも話をさせていただきます。

B委員：関連していいですか。17Pの教室というところの流れをみると何も書いていないところと参加者の人数が書かれているところがあるんですが、何も書いていないということは公民館自体が教室を計画せずに何もなかったというということですか。

事務局：教室というのは公民館が主催したもので数字が入っていない箇所はご指摘のとおり教室の開催　がなかったということです。サークルというのは自主サークルとなります。５、６年ほど前だと思いますが教室をサークルにしていくという大きな流れがありまして、公民館の教室を自主運営に変えていくということでサークル数が増えていってます。そして、新たに地域の学習の要望があった場合には、教室を立ち上げていくという形で運営を進めています。

４．協議

（１）地域シンポジウムについて、事務局より報告を行った。

【質疑応答・主な意見】

C委員：基本的に社会教育委員２名ということになっていたんですが、大塔地域の時に１人ヘルプに　来ていただいて随分スムーズに進んだように思うんですね。参加人数はそんなに多くはなかったんですが、テーブルが５つだったかな。社会教育委員２名というのではなく、参加できる方が自分の暮らす地域以外の地域へ行って話し合いに参加するのが社会教育委員としてプラスになる部分があると思うので次回は２、３人という形で進めていければいいなと思います。また、その会で出た意見を社会教育委員としてどのように受け止めていくのか。1件直接電話を頂いて、これだけ意見が出ているんだから地域活性化委員会みたいなものをきちんと立ち上げて話を進めていったらどうかといったようなご意見がありました。ただ、私がそれをお受けしたというのではなく、公民館の方にこういう意見が出ましたよと伝えました。また、それはいい意見なんですが私の一存ではと言うとあなたがそういう会を作ったらどうだ。あなたが作ったら私も参加します。と言われ、社会教育委員会議で地域シンポジウムの時にこういう意見が出ました。それを具体化していくのにどういう筋道があるのかというのを問題提起しておきますと曖昧に言って終わってます。そういう場合にどんなふうにすればいいのか。

副議長：全部が全部に当てはまるとは思ってないですが、まちづくりあるあるでよくあるのがまちづくりの意見を募集したらこんなんやったらいいやんっていう意見はいっぱい出るんですがそれで事務局が振り回されるんです。そうではなく、自分がやりたいこと、やることを出してくださいとするとまさに絵に描いたようなパターンでやってくれたらやりますという感じになるんですね。それがいくら集まっても物にならないと自分の経験で言い切れると思っているのでスルーしていいと思います。その人が動かないのであれば。やってくれたら動くよでは多分進まないと思うので。一つの意見です。

A委員：計画のなかだけでなくて、やっぱり共有の場なので改めて言わせていただきます。人集め、　この間も言ったんですけど公民館で差がありすぎたので、来てくれるかどうかは別にしても最低この人だけは来てほしいなというのは運営委員なり館長、主事、皆でもうちょっと協議した方が良かったと思います。C委員からも話が出ていましたが、私も何か所か出て話が出来て良かったと思います。計画作りの為の場所だけでなくて、地域づくりの一環であり、地域の課題なりをこんなことがあったんだと良い所も悪いところもこれからどうしていかなければならないか地域の課題を考える人材育成の場でもあると思うので、それだけ重要だということ確認した上で進めていって欲しいと思いました。また、グループ分けにしても地区によってミックスした方がいい場合とそうでない場合、課題が同じ地域でも住む場所によって違うのでそこらへんをどうしたらいいのかを事前に社会教育委員と主事と話し合った方が良かったと思います。やっぱり、別にして欲しかった、ミックスで良かったという意見もあったのでそこは確認すべきだと思います。それと社会教育委員で話し合う中でKJ法と言いましたが、手法としてこういった意見が出たときにちょっとアドバイスが出来るようにある程度、知識を持っていた方がいいかなと思いました。シンポジウムについては以上です。

D委員：私は初めてこういう会に何回か参加させてもらって、それぞれの地域の良さというか課題と　いうかいろいろと知れて地域によって違うんだなということを再認識させてもらいました。このシンポジウムをするにいたっての社会教育委員さんの思いというものに実際に触れることが出来ましたし、まちづくりを真剣に考えているということを肌で実感することが出来て私自身は学校教育という場に生かせていければいいなと思いました。それとE委員が来ない時はどうするのかと不安になりながら参加していたんですが、ほとんど出ていただいて本当に助かったなという思いでいっぱいです。ありがとうございました。それと中身のところで思ったのは、若い層と高齢の層、年齢層によって思いが違う。やっぱり、若い層が思っているのは現役世代を魅力的にしたいとか安心安全とか子育てを充実させたいという思いがあって、高齢の方というのは実際にこれまで地域づくりに関わってきたんでこれからを託す後継者のことなど切実な思いがあってその二つの思いがそれぞれあるんだなと。これをどういうふうに融合させてやっていくのかが大事かなと。やっぱり若い人達を取り込んでいくには今やっている魅力的な田辺市というのを深めていかなければいけないし、そのためには学校教育の方でもそういう人材というか子ども達を育てていかなければならないと改めて感じました。

B委員：中辺路にIターンで来てお店をやっている小学生と中学生のお父さんなんですけど、とて　も良かったと感想をお話されてて地域の人や隣の村の人とも出会えてコーヒーも飲みに来てくれてうれしいと言ってました。私は地域で公民館事業としてひな祭り講演会の実行委員を一人でやっていて分館長さんと二人でやっているんですけど、実行委員会を開く時だけ小学校の保護者会長と中学校の保護者会長さんと保育所の保護者会長が集まってくれて3ヶ月の実行委員会をやるんですね。それをやるための最初２人でやってるところに一緒にやってくれないかと誘ったら、すごく喜んでくれて誘ってくれてありがとうと言ってくれて、そういう気持ちになってくれたのがすごく良かったなと。これがつながっていったらいいんじゃないかなと思いました。

（１）生涯学習推進計画素案検討部会について、事務局より会議結果報告を行った。

質疑応答はなかった。

（２）人材育成事業企画部会について、事務局より会議結果報告を行った。

【質疑応答・主な意見】

副議長：補足説明ですが、今年は市長を交えたシンポジウムをやれるときにやるということで最初に実施します。また、高校生へのアプローチはこれまで通り続けていきます。一般公開講座については、過去３年は地元の良さを若い人達にも知ってもらって戻ってきて欲しいという思いで組み立ててきました。実際、高校生と大人の対話というすごく良い話がその場ではされたんですが、参加者がやっぱり少ないしいくらそういうのをやっても参加する人ないわなということで改めて誰に聞いてもらったらいいのかかなり悩みました。そして、直近の部会でその他講座として案が３つ出ました。そのなかで中学生を対象にした講座の話が盛り上がって今まで高校生にやってきたのでその下の世代はどうかと。とはいえ、現場の中学校の事情が分からないままいろいろと意見が出ていたので、先般、事務局と一緒に中芳養中学校に行きD委員に過去の高校生向けの講座をそのまま中学生に話したらどうなのかなど相談しました。そのなかでD委員から中芳養中学校にたくさんある無農薬の梅の実を南部高校と連携して加工品を作って弁慶市で売るということをプラグラムとして考えているという話があったので去年、田辺高校で講座をしてもらった山本将志郎さんが梅農家で梅を交えた話をしてくれるだろうということでぜひやりましょうという話になりました。

D委員：今年度もコロナの関係で２年生の職場体験学習がなかなか実施しにくい状況でありますので　何かそれに代わるものということで加工・流通・販売というものを体験できないかなと。ちょうど１年生が校内の梅の木から取れた実でジュースを作るんですが、他に使えないかと近所の人にも話を聞くと全く消毒してなくてニーズがあるのにもったいないと聞いていたので使えないかなと。そこで過去に中高連携ということで南部高校と連携したこともあり、食と農園科の卒業生も何名か知っているのでそことの交流とまた、南部高校もいろいろと活動しているのでその輪に参加させてもらえないかということで連絡を取ったところ快くいいですよと返事をいただきました。本校の生徒が収穫した実を南部高校でジャムに加工させてもらって弁慶市で販売するというのを体験した後に振り返るという意味で講座を聞くことで大変プラスになるのではないかと思います。

議長：本来であれば部会で協議をして定例会で共有してましたが、この件に関しまして事務局も他　の委員さんも確定ということでよろしいでしょうか。

（異議なし）

A委員：全体で社会教育委員会議としてではなく、公民館の方が適切かなというのがあって、部会の　時にも言わせていただいたんですけど移住してきた妻たちの想いで私も京都に行ってしんどい思いをしたのでよく分かるんですけど。5月19日付の紀伊民報でほっと一息つける場をということで転入親子の集いというのがあるんですね。これが子育て支援センターで２ヶ月に１回なんですね。小さいお子さんをお持ちの方だと思うんですけど、せめて１ヶ月に１回ぐらい公民館で話し合える場所があっても面白いし、ずいぶん助かるかなと。同じ境遇の人にちょっと自分の気持ちを言える場があるというのはホッとするんですね。それは本当に良く分かるんですね。そういう場を公民館で設けてくれればなというのと公民館の盛り上がりをもうちょっとお願いしたいのが田辺市はデジタルトランスフォーメーション（DX）進めていますよね。私はPCやスマホとか弱いので何とも言えないんですが、1回参加したんですけど公民館で紀伊民報の５月24日付で掲載されていた高齢者向けのスマホ講座があったり、この間テレビで見たんですがアプリを取れば防災情報がみれて避難所がどこにあるかって分かったりするんですね。生涯学習課の職員で得意、不得意あると思うんですけどちょっとずつでもスキルを上げて、そういうのを各公民館で実施してもらえたらなと思います。もう一つ、男女共同参画の懇話会にも参加しているんですけど、そこの事前資料に男女共同参画プランの活動報告があります。前にも言わせてもらいましたが、男女共同参画とは関係のない内容が報告されていたので見直しをお願いした事があります。それは生涯学習課だけの事でなく、全体です。今度は見直しがされると思いますが、男女共同参画問題は、今、社会的課題になっています。橋本市の条例のなかでも教育委員会の役割が明記されてるんです。最初の教育長の話で女性教頭先生の割合が過去最高の50％ということで素晴らしいと思います。校長会はまだまだらしいんですけど、一歩ずつでも前進していることは素晴らしいし有難いので、これからもお願いしたいと思います。文科省からも教育関係にいろいろな問題をおろしていますよね。そういうことも含めて、全体では難しいかもしれないけど、公民館でそういう取り組みを進めていってぜひ今年の11月の事前報告書にはそれなりの報告が出来るようにお願いしたいと思います。

副議長：今のA委員の話なんかでいうと部会で企画を考えるなかで、その他講座の宮城県白石市斎川公民館の公民館型小規模多機能自治の事業事例を聞くという場を作るというのは一つなのかなと思います。これはE委員からの提案なんですけど、ここの公民館は全国表彰されていて、HPを拝見すると若い女性の職員さんが若い世代をどういう公民館活動に引き込むのかというのをすごくしていました。それを公民館を担う館長さんや主事さん達と一緒に学んで活かせればなと。市民カレッジの市長を交えたシンポジウムと高校講座、中学講座で終わるのでなく、事務局さんはしんどいかもしれませんがもう一つ入れてみるのもいいのかなと思います。一度、部会でも相談できればなと思います。

議長：全体で講座をどれだけするかということも含めて部会でもう一度検討いたしまして、講座に間に合うように定例会で承認して頂くように今年度の人材育成講座を進めていくということでよろしいでしょうか。

（異議なし）

議長：田辺高校、神島高校、中学校、田辺の明日を考えるシンポジウム、公民館を対象にした講座と５件あるので年間スケジュールを考えた場合にどうかというのも検討する必要があるかなと思います。

事務局：市民カレッジの企画について改めて確認させていただきます。その他講座の中で宮城県白石市斎川公民館の公民館型小規模多機能自治の事業事例を聞くということで公民館の主事を対象にするというお話もありましたが、公民館主事を対象とすると職員研修という形になってしまいます。また、小規模多機能自治については自治振興課の取り組みであり、職員研修等も検討していると思うのでそことの兼ね合いも必要になってきます。市民カレッジの企画は、市民を対象に人材を育成するという主旨で取り組んできているものですのでよろしくお願いします。

５．その他

　E委員より、次のとおり、情報提供がありました。自治振興課と小規模多機能自治、田辺らしい新しい自治の議論が進んでいて、一番課題になっているのが新しい自治を支える人材育成モデルです。田辺市の人材育成は三本柱だと思っており、まず一つは、基盤に地域関心とか地域に目を向こうと思う人を育てる人材育成でここは公民館が一番得意とするとこで社会教育の出番かなと思います。そのうえに創造塾、起業してやろうと思う人が産業おこしも含めてやっていこうというのがひとつ。そして、自治振興課がやらないと駄目なのがそこの自治を支える新セミナーということでどういうカリキュラムでやるのかが自治振興課の課題です。自治振興課の動きや社会教育との棲み分けなども含めて人材育成の三本柱で考えていくのが大事でそこをふまえて社会教育の基盤となるものとして何が出来るのかを考えていく必要があります。

６．閉会　副議長挨拶